

新 生

威風堂々 富士は世界の宝物 小富士



東北新生園入所者自治会

平成二十七年六月 十日印刷
平成二十七年六月 二十日発行

新生第六十七巻 第二号

新 生

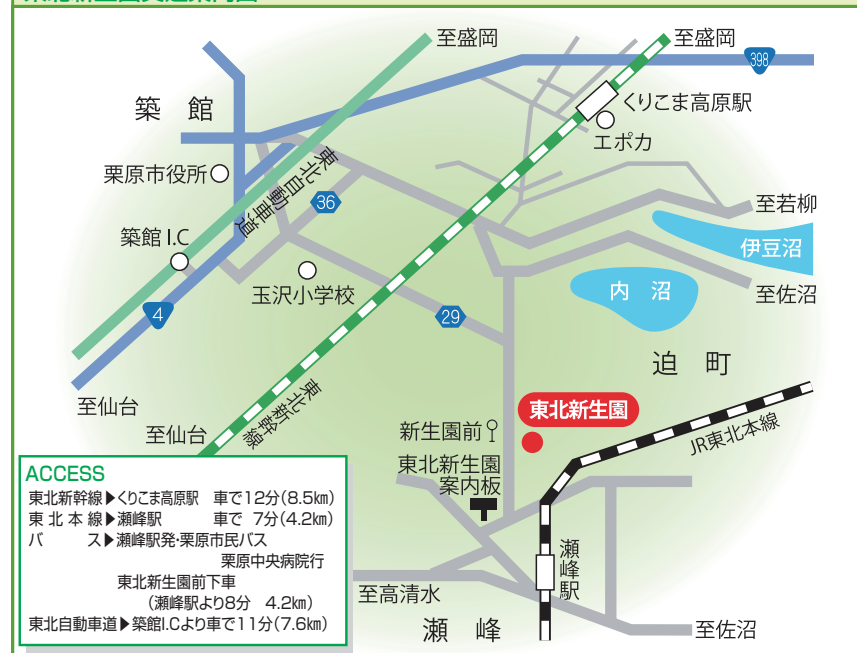
平成二十七年六月 十日印刷
平成二十七年六月 二十日発行

第六十七巻 第二号

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	25,280㎡
開 園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	244床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男35名 女48名 計83名
職員定員数	153名（平成27年4月1日現在）
園 長	医学博士 横 田 隆

東北新生園交通案内図



行幸啓記念碑除幕式

— 平成27年3月26日 —



除幕式

(左から)
藤原副園長、久保自治会長、横田園長、宮里総看護師長



行幸啓記念碑



参加者記念撮影

園内日誌

平成二十七年 一月～三月

《二月》

五日 正月行事(抽選会)
六日 楓会新年賀詞交歓会
七日 新年寮長連絡会
三十日 宮城学院女子大学生視察

《一月》

四日 東北新生園将来構想委員会

《三月》

二十六日 行幸啓記念碑除幕式

【謝寄贈図書欄】

平成二十七年 一月～三月 (敬称略)

多磨全生園	高磨東京多磨全生園	菊池栗生楽泉園	青島青松園	愛生愛生園	始良岡山長島敬愛園	甲田の裾青森県松丘保養園	緑園岡山県邑久光明園	すずかけ宮城県登米高校生徒会
-------	-----------	---------	-------	-------	-----------	--------------	------------	----------------

平成27年6月10日 印刷
平成27年6月20日 発行

発 行 東北新生園楓会(自治会)
編 集 楓 会 文 化 部
印 刷 川 内 印 刷 株 式 会 社

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)
発行所 東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第六十七巻第二号……………目次

表紙…「富士山」……………桃生 小富士

就任のごあいさつ……………薬剤科長…熊谷 学…(2)

転勤のご挨拶……………福祉室長…佐藤 吉浩…(5)

就任のご挨拶……………副総看護師長…佐藤 育子…(7)

大國インドからハンセン病がなくなる日まで……………

……………WHOハンセン病制圧特別大使…笹川 陽平…(9)

東北新生園訪問……………

……………宮城学院女子大学(二〇一五年三月卒業)…作間 温子…(17)

|| 新生文芸 ||

詩……………選者…佐々木 洋一…(20)

短歌……………選者…長田 雅道…(24)

俳句……………選者…山田 桃晃…(26)

川柳……………選者…栗石 隆子…(28)

よろしくお願いします……………看護師…角館 とも子…(30)

お世話になります……………看護師…菅原 幸栄…(31)

旅の途中の思い出……………看護助手…白鳥 辰雄…(33)

七夕会……………看護助手…今野 きよし…(34)

園内日誌・謝寄贈図書……………

就任のぐあいやつ

薬剤科長 熊谷 学

この度、皆様のお薬を担当させていただくことになりました薬剤師の熊谷です。どうぞよろしく願います。三月までは、厚生労働省の医薬食品局という部署に出向して、医療機器の製品を扱う仕事をしておりました。医療機器は、人体に与えるリスクに応じて四つに分類されているのですが、メスやピンセットなどのリスクの低い医療機器から人工心臓や放射線治療機器などのリスクの高い医療機器があります。私が担当していた医療機器は、電子式血圧計や補聴器などのリスクが中程度のもので、各医療現場やご家庭等で安全に使用していただくために必要な業務

をしておりました。医療機器を扱っていた者が、薬を担当すると聞くと大丈夫かなと思われるかもしれませんが、元々は病院の薬剤師でしたので、薬に関しましては専門ですので、どうかご安心下さい。お陰さまで、薬局での仕事の感覚も大分戻ってきました、毎日楽しくお仕事をさせていただいております。

私は宮城県仙台市の出身です。ですから、この度、宮城県の東北新生園でお仕事が出ることを大変嬉しく思っています。東日本大震災以降は、東北、特に地元の宮城の医療のために出来る限りの事をしたいと思うようになりました。

大学を卒業して病院の薬剤師として働き始めましたが、その一年目の平成七年一月十七日に阪神・淡路大震災が起きました。当時その震災を知ったのは昼休みで、上司と職員食堂に入ってテレビのニュースを見た時でした。燃え広がる神戸の街の映像を前に、他の職員達と愕然として立ち尽くしてしまったこ

とを覚えています。その時、上司から『援助の要請がきたら熊ちゃん、行くかい』と聞かれ、何とかしなければいけないという思いはありながら、駆け出しの薬剤師で経験がなかった私は、『僕に出来ることがあるのでしょうか。』と情けない返答をしてしまったのです。後に振り返ると、経験不足は一年目です。から当たり前のことで、結局のところ勇氣と自信がなかっただけだったと思います。実際のところ、援助の要請はなく、神戸の被災者の方々に対しては何も出来ず、重い気持ちだけが残りました。困っている人を助けるのが医療職の責務であるのに、私の医療職としてのスタートは、何も出来なかった事に対する悔しさから始まりました。その後、私はいくつかの医療機関に勤めましたが、事ある毎に一年目の自分自身を思い出し、自らが果たすべき役割を考えながら業務をしてきました。四年前に起きた東日本大震災の時は、阪神・淡路大震災の事を思い出し、何の迷いもなく

これから起こる事態を予測しながら医療活動を行いました。当時私が勤務していた仙台医療センターは、宮城県災害拠点病院で、日本各地からDMAT(災害派遣医療チーム)が次々と支援に駆けつけていただき、共同で医療活動に従事しました。四月下旬頃からは、休日に石巻、女川、南三陸町の医療機関に赴き、現地スタッフのサポートを行いました。とてもつらい現実を目の当たりにしながらの活動でしたが、全国各地から集まって下さった医療関係者やボランティアの方々と一緒に、現場の業務を悪条件ながらも円滑に行えたことが大変うれしく、心強さを感じたものでした。被災地域が復興するまでには、まだまだ長期的な支援が必要であると思います。また来るべき震災への備えを、日常から確実に行っていかなければならないと思っています。

さて、仕事に関する事を述べさせていたいただきましたが、休日等の時間があるときは、近

所をジョギングしたり、各地で開催されるマラソン大会に参加したりしています。走ることが大好きで、マラソン大会の前後にはその開催地を観光地したり、名物の美味しいものを思いっきり食べたりして楽しんでいきます。

走り始めてかれこれ二十年近くになります。が、ここ数年は空前のマラソンブームで、人気のある大会ではエントリーの受付から数時間で締切りになってしまい、大会に参加できないこともしばしばあります。走り始めた頃は、女性の参加者は少なく、私の前を走る女性ランナーは、実業団や学生の陸連登録選手くらいしかいなかったのですが、最近では女性ランナーがかなり増えてきて、お洒落なランニングウェアを着た女性ランナーや人気キャラクターの着ぐるみで仮装しているランナーに次々と追い抜かれています。別に競争をしている訳ではないのですが、ふなっしーやポケモンに立て続けに抜かれていくと、正

直複雑な気持ちになります。

大会を開催している人達の思いやボランティアの方たちの応援に接すると自然と感謝の気持ちでいっぱいになります。更に大会で走っている間は沿道からたくさんの方の応援をもらいますので、とても元氣になります。

お菓のことでお困りのことがありましたら、どんな些細なことでも構いませんのでお気軽にご相談下さい。こんな私ですが、経験はそれなりに積みましたから、きっと安心していただけるお手伝いができるかと存じます。皆様が安心して過ごされるようしっかりと努めさせていただきます。困っている方を助けることが、私の使命なのです。どうぞよろしくお願いいたします。

転勤のご挨拶

福祉室長 佐藤 吉 浩

こんにちは、この四月に青森県にある国立病院機構八戸病院から、福祉室長として赴任してまいりました、佐藤です。どうぞ宜しくお願いします。出身は、秋田県本荘市、秋田県の南部、日本海側に面した小さな城下町です。平成の大合併で周辺の町と合併し、旧由利郡の名称を旧本荘市に冠し、現在は由利本荘市となっています。

実家は、市内にあった旧国立療養所秋田病院まで歩いて三十分の距離でしたが、配属先は、毎朝秋田病院正門を横目に見ながら車を走らせること二十五分、隣町の岩城町にある国立療養所道川病院でした。まあ人生はまま

ならないものです。道川病院は海岸の高台に建つ小さな結核療養所で、天気が良いと毎日日本海に沈む夕日が眺められる絶好のロケーション、海まで坂を下って五百メートルの近さでお昼は海岸で食べている職員もありました。ここで、会計係、医事係として契約と施設管理、医療事務を担当しました。二十九歳で民間会社から転職した私にとって公務員流の考え方になかなか慣れずに戸惑いながらの最初の五年間でしたがここで、公務員のいろはを教わりました。

その後米沢病院勤務中に独立行政法人化を経験、花巻病院、あきた病院、八戸病院と転勤を繰り返してきましたが、初めて太平洋側に住んだときは、冬の秋田の鉛色の空とうつて変わった毎日続く青空に驚き、池に張った氷がガラスのようだと驚き、雪が降らない冬に驚き、逆に米沢では、二メートルを超える積雪に埋もれ、いつの間にか二十有余年、

引越回数は七回と大体三年に一回の異動ですから標準的な回数でしょうか。

趣味はのんびり長距離ドライブと自転車に乗つてのぶらぶら史跡巡り及び読書です。特に車に折り畳み自転車を積んでドライブが一番、気が向いたら自転車を組み立ててぶらぶら散策します。長距離運転は苦にならないので、気が向いたら高速道路を使わずにロングドライブで何処までも走ります。気が向くと早速自転車を組み立て、ぼたぼた走り始めます。知らない町を目的を定めないドライブや散策が一番のストレス解消法となります。ただ、走行距離はどんどん伸びるのが玉に傷、現在の愛車も五年弱で走行距離は十三万五千キロとなり下取り価格は下がる一方です。

読書の方は完全に乱読でジャンルを決めずに純文学からハードボイルド、歴史物、SFから推理小説に伝奇小説、古典なども守備範囲として乱読中です。最近は大阪の歯科医師

で作家の上田秀人さんの時代物シリーズを集中的に読んでおり、おかげで江戸の謎知識ばかりがついてしまいました。

そんな私ですが、国立病院機構が公務員型の特定独立行政法人から、非公務員型の中期目標管理型法人へと移行するこのタイミングで異動となりました。

今回十年ぶりに国立の施設での勤務となります。初めての宮城県、そしてハンセン療養所の勤務も初めてです。まだまだ不慣れで、ご迷惑をお掛けすることも多々ありますが、一日でも早く業務に慣れ皆様のお力になればと思っておりますので宜しくお願い致します。

就任のご挨拶

副総看護師長 佐藤 育子

この度、国立病院機構仙台西多賀病院から赴任して参りました、佐藤育子です。よろしくお願い致します。仙台西多賀病院では六年間、神経内科病棟の看護師長として勤務してきました。進行していく病気と向き合い一生懸命頑張られている患者さんの為に自分は何ができるか考え関わってきました。患者さんの笑顔と感謝の言葉を頂くたびにうれしいのは勿論ですが、逆に元気をもらいそれが励みになりここまで頑張れたと感じています。

国立療養所東北新生園での勤務を始めて約一ヶ月が経過いたしました。園の歴史や入所者さんのお話を聞き、微力ではありますが入

所者さんが少しでも穏やかにそして楽しく過ごしてできるように頑張らなければいけないと心新たにしております。

簡単ではございますが、自己紹介をさせていただきます。私は、東京オリンピックの年に秋田県大館市で生まれました。秋田生まれという「秋田美人」とイメージされるかたも多いと思いますが、はずがしながらそのイメージとはほど遠い私です。私の生まれた大館市には日本最大の木造建築があります。

「大館樹海ドーム」といいます。「大館樹海ドーム」は、一九九七年七月十一日に完成し、ドームの屋根は樹齢六十年以上の秋田杉25,000本を使いアーチ状にしたものです。野球やサッカーやテニス等のスポーツイベントを始め、コンサート等も開催されます。SNAPやKinki-Kids等のコンサートも開催されたことがあります。

私は、生まれは秋田県ですが、嫁ぎ先が岩手県で、看護師長に昇任してからは単身で青



「大館樹海ドーム」

ます。
恥ずかしながら、私は今、自身の仕事を覚えることで精一杯ではございますが、一日も早く入所者さん一人ひとりのお顔を覚え、すこしでもお役に立てるように頑張っていきたいと思っております。病棟やセンターに行った時には、お声をかけることがあると思います。その時には、どうぞよろしく願います。

森県、宮城県と様々な場所でも働き、約三十年が経ちました。二人の子ども結婚し、気づいたら私は四人の孫に恵まれ、休日は老体にむち打って孫と駆け回っています。孫の笑顔は私の活力源で本当にかわいく、どんなに疲れていても顔をみると疲れが吹っ飛んでしま

大国インドからハンセン病がなくなる日まで

WHOハンセン病制圧特別大使 笹川陽平

時はさかのぼるが、二〇一三年八月二十八日から三十日の三日間、インドのニューデリーを訪れた。私が第二の故郷と呼ぶインドへは、今回の訪問で四十七回目を迎えた。二泊二日、四十八時間の短い滞在であった。

今回の目的は、今後のハンセン病対策についてインド政府保健省の事務次官と面談、昨年十月に発足したハンセン病国会議員連盟の会合への出席、そしてハンセン病回復者の経済的自立に向けて活動を展開しているササカワ・インド・ハンセン病財団の理事会に出席

することであった。

初日、朝一番にWHO東南アジア地域事務局にて世界のハンセン病制圧活動の責任者であるサムリー事務局長と面談。前月七月二十四日からの三日間、バンコクで国際ハンセン病サミットがWHOと日本財団との共催で開催された。近年ハンセン病の患者数の減少が停滞している懸念から、年間一〇〇人以上の新規患者数を持つ十七ヶ国から政府代表が参加し、専門家、NGO、ハンセン病当事者などあらゆるステークホルダーとともに、ハ

ンセン病対策に力を入れることへのコミットメントが表明された。本サミットの共同提案者であったサムリー事務局長にサミットが成功裏に終わったことへの謝礼と、特に患者数の多いインド、ブラジル、インドネシアの三ヶ国に重点を置き、各国においてバンコク宣言のフォローアップに力を入れていくことを再確認した。

国際ハンセン病サミットにおいてただひとつ残念だったことは、世界最大の患者数を抱える大国インドから政府の代表が姿を見せなかったことである。そこでインド政府保健省の事務レベルのトップであるケシャブ・デシラジュ保健次官、アンシュ・プラカーシユ次官次席、国家地方保健計画を担当されているアヌラダ・グプタ局長、ハンセン病局長のC・M・アグラワール博士、局長代理のA・K・プリ博士と、保健省内の関係者と並んで面談。一方、WHO側からは世界ハンセン病プロダ

ラムのチームリーダーであるスマナ・バル博士、コンサルタントのランガナサ・ラオ博士、東南アジア地域事務所のハンセン病プログラム担当アドバイザーであるジーザズ・パウロ・ルイ博士、そしてWHOインド事務所のナタ・メナブデ代表が同席。ハンセン病当事者、回復者の代表であるナシヨナル・フォーラム（現インドハンセン病回復者協会）のナルサツパ会長もハイデラバードから駆けつけ、バンコク会議の報告とインドのこれからのハンセン病対策についてさらなる活動の強化を要望した。

インドでは二〇一〇年より、年間新規患者数発見率が一万人に一人以上である二〇九の県を定義し、重点的に新規患者を発見するための活動を行っている。二〇一二年～二〇一三年の一年間で報告された十三万人のうち、実に二万人もの方々は保健ワーカーやボランティアの家庭訪問で発見されている。結果的

に患者数は昨年より5%上昇。表面上患者数が増えたことは危惧すべきサインではあるが、それまで診断がされていなかった隠れた患者が診断され、治療が行き届くようになったことは歓迎すべき流れともいえる。

一方で、一軒一軒家を回るような新規患者発見のための活動は費用対効果が非常に低いことから、通常の一般統合医療の中で診断・治療を可能にしなければ、ハンセン病対策のサービスが持続的とはいえないと指摘する専門家の声もある。

発展途上国のインドの国土は日本の九倍以上あり、ハンセン病対策のサービスを広い国土の隅々まで行き届かせることは容易なことではない。対策を講じるにもまずは現状を把握することが不可欠であり、現在のハンセン病患者数を正確に把握するためには、各州レベル、県レベルにおいて患者発見活動に力を入れていくことが第一歩となるだろう。患者

数の多い蔓延州において州政府のコミットメントを促すためにも、これからもインド各州への訪問が欠かせない。

日本財団では毎年世界ハンセン病デーに合わせハンセン病回復者への差別撤廃に向けたグローバル・アピールを世界各界の著名人の協力を得て発表しているが、来年二〇一四年は各国の国家人権委員会からの賛同をもらうべく準備を進めており、インドからも協力を得るため、インド国家人権委員会バラクリシュナン委員長を訪ねた。インド国家人権委員会はハンセン病の問題について深い関心を示してくださっており、二〇一二年十月にインドにおいてハンセン病と人権国際シンポジウムのアジア大会を開催した際にも出席された。また同年には国家人権委員会が主催し、ハンセン病をテーマに各州の人権委員会代表を集めたワークショップも開催された。夏期と冬期、年2回の恒例となっている法律や人



バラクリシュナン委員長（中央）とナルサツパ会長

権を専攻する学生によるインターンシップにおいてハンセン病をテーマとしたセッション

た。トリベディ氏の挨拶に続き、四十年来取り組んできたハンセン病との闘いについて話したところ、皆さん熱心に耳を傾けてくださった。

議員連盟では、ハンセン病問題を優先課題として取り組むよう国会等で積極的に取り上げていくこと、一般に向けた医療・面社会面両方の啓発活動、そして低所得者層に向けた政策や各国会議員が持つ地域開発基金をコロナの環境改善のために役立てることなどを目標として取り組んでいくことが決定されており、ハンセン病患者、回復者の生活向上と差別撤廃に向けて大きな支援者を得たことになった。

翌日、三十日は、朝食後にまずハンセン病回復者の全国組織ナショナル・フォーラムのナルサツパ会長とヴェヌゴパールと会い、彼らの活動の現状についての報告を受けた。続いてはササカワ・インド・ハンセン病財

を設けたり、デリー首都圏内の中学校においてササカワ・インド・ハンセン病財団が差別撤廃の啓発のための授業を行う活動資金も提供されている。

八木日本大使に表敬後、午後には再びWHOインド事務所にメナブデ代表を訪ね、インドのハンセン病の現況について詳細な説明を受けた。

夕方は、デリー中心地にあるディネシュ・トリベディ国会議員の自宅へ。私の長年の夢であるインドにおいてハンセン病問題の啓発をはかるための国会議員連盟の集まりがあった。鉄道大臣と保健家族福祉副大臣を務められた経験のあるディネシュ・トリベディ議員が発起人となり、合同発起人であるマドゥ・ヤスキ議員を始め五十二名の国会議員が連盟に参加。今回の会合には国会会期中にもかかわらず十六人の議員が参加し、ナショナル・フォーラムの代表のナルサツパ氏も同席し



トリベディ議員が中心となった会合

団（通称SILF）の理事会。財団の理事会というところ、議事次第通りに書類が回覧されて

承認される風景を想像されるかもしれないが、この財団の理事会は一味もふた味も異なる。まず議論される書類の量は実に八十八ページに渡る分厚い資料。事務局長からの報告に対して各理事が真摯に意見を出し合い、熱い議論が繰り広げられ、会議が予定時間を超過することも珍しくない。

SILFは「インドのハンセン病コロナーから物乞いをなくす」という壮大な目標のもと、二〇〇六年の設立以来、ハンセン病回復者の経済的自立を最大の柱として活動を展開。民族服サリーの販売やリキシャ操業など、各コロナーの立地と回復者のスキルを生かしたビジネスを立ち上げるための資金を提供しており、現在ではインド国内十六州において約一五〇のビジネスが立ち上がっている。

近年は第二世代であるハンセン病回復者の子どもたちの教育支援にも力を入れて取り組んでいる。教育支援プログラムは、女性を対

象とした看護師養成奨学金と、男女両方を対象とした職業訓練プログラムの二種類。

まず看護師養成については、インドステート銀行とサー・ドラブリ・タタ基金からの寄付をいただき、二〇一一年より三十五人の子どもたちに国の認定を受けた看護師養成コース四年間の受講を可能にしてきた。インドでは、女性にとって看護師は伝統的にとても人気の職業であることから、この奨学金は希望者が多い。応募資格の条件には合うものの資金が限られていることから断らざるを得ないケースが多いことは残念であり、なんとか一人でも多くの希望者に報いるため、インド企業の寄付協力先を増やさなければならぬ。

職業訓練プログラムは、十年生までの教育を修了した人たちを対象に、さまざまな店の販売員やファストフードの配達など、雇用が足りていないサービス業に就職しやすくするための基礎的なトレーニングを行うもので、



SILF理事会のメンバーと

二〇一二年よりそれまでに六十六人の若者たちが修了し職に就いていた。加えて、二〇一三年新たに国立職業開発協会より新たに三五〇人分のトレーニング費用の寄付が決定し、各州を回って希望者を募っていく予定となった。

インドのハンセン病の社会面の問題においては、当事者の経済的自立をどう進めていくかという課題と並んで、第二世代である若者の社会参画をどう実現するかという課題がある。全体の数から見れば一部ではあるものの、ハンセン病コロナーの出身者であるというレッテルを外して、一般社会の競争の中で成功できる若者が出てきていることはとても明るい兆しであり、我々が設立した財団がその機会を提供できたことは非常に嬉しく思う。

関係者の努力の甲斐あって、インドにおけるハンセン病とそれにまつわる差別をなくしていくための闘いは、国会議員や人権委員会

など、さらに幅広い層を巻き込んで展開されている。しかし問題が解決したといえるようになるまでの道のりはまだまだ遠く、手綱を緩めることはできない。今年は特に各州への訪問に力を入れ、ハンセン病対策が隅々まで

行き渡るようになるまで、またハンセン病回復者が尊厳をもって生きられる社会となるまで、引き続き関係者と手を携えて取り組んでいく覚悟である。(了)

観桜会 新生園睦ヶ池



写真提供：石山 清

東北新生園訪問

宮城学院女子大学（二〇一五年三月卒業）

作 間 温 子

二月十日、私たち学生十二名と職員二名は、東北新生園を訪問しました。一月末日に設けられている「世界ハンセン病の日」の一貫とし、ハンセン病について理解を深めることを目的として、笹川記念保健協力財団の喜多悦子理事長による講演会と、この「東北新生園」への訪問を企画したのです。

正直に、いまの大学生の世代にとって「ハンセン病」は、ほとんど耳にすることが無い病気で、知らない人がほとんどです。私も一年前にフィリピンのクリオン島というかつて

のハンセン病患者の隔離島で行ったボランティアをきっかけにハンセン病の問題を知りました。その時は、衛生水準の低い、発展途上国の環境で起こる病という印象が強く、日本においてもそのような病気があったということは想像できませんでした。しかし日本でも、政策によって療養所に押し込められ、家族と離され、辛い経験をされてきた人々がいること、私たちの祖父母と同じ年代の方々がいまだ六十年以上もその場から出ることができない状況があることを知りました。さら

に、私たちの世代が生まれてからも隔離政策が続いていた事実に対し無知であると感じ、恥ずかしさと悲しみがこみ上げてきました。その後、自分の足で東京や四国の療養所を訪れたり、文献を調べたりと、ハンセン病に関する事柄に引き込まれていきました。私がこの一年ずっと関心を持ち続けることができたのは、入所者さんたちとの関わりがあったからだと思います。

入所者の皆さんと話す度、元気を貰えます。皆さんから生きる力強さを感じます。私は、ハンセン病に関心を持ったことで皆さんと出会い、人と関わることにについて学ぶことができました。これは学生生活の中でも大きな出会いだったと感じています。

今回、東北新生園を実際に訪れ、園内見学と自治会長の久保瑛二さんのお話を聞き、入所者の方の実体験や生活環境に触れ、少しだけ皆さんの生活を知ることができました。辛い経験をされてきたにも関わらず、とても前

向きな印象を受けました。

久保さんは、「療養所の自治を通して入所者に平和で和やかな生活を送って欲しい」とそのために尽力されています。また東北新生園は昔から地域とのつながりがあった全国的にも稀な療養所であり、地域の人々が差別や偏見なく寄り添ってくれたということから、「療養所と地域とのつながりを大切にしたい」と語る姿が心に残っています。療養所も一つの社会であり、そこでどのように人や社会と関わるかを考え、実践していくことが「生きること」なのだと感じました。そのように考え、懸命に生きようとしてきた方たちの姿からは学ぶことがとても多くありました。

私は、この経験を通して、人との関わりについて考えるようになりました。「差別」や「偏見」といった人間が持つ心の病を消し去ることは難しいかもしれませんが、しかし、ひとり一人の心の持ちよう、思いやりによってそれらを治すことができるのではないでしょう

か。皆さんのお話を聞くことができる最後の世代として、これからも日本のハンセン病問題に関心を持ち続けると共に、みなさんと関わり続けていきたいと思っています。「ハンセン病を考えることは、人間を考えること」という日本財団の啓蒙スローガンがありますが、私たちのような若い年代こそ皆さんの生き方を通して、「人間の尊厳」「生きること」を考えるべきではないかと改めて感じました。

またおしゃべりをしに東北新生園に遊びに行きたいと思っています。これまで園が地域とのつながりを続けてきたように、今回できたつながりの輪を抜け、この先も交流していきたいと思っています。

今回、この訪問企画を支えて下さった園長先生、職員の皆さん、そしてお話をしてくださった久保会長、多くの入所者の皆さん、私たちが温かく迎え、貴重な機会を頂き、本当にありがとうございました。



会長講演の様子



記念撮影



施設内見学



資料館見学

詩

佐々木 洋 一 選

◇ 入 選 ◇

《姉妹寺》 北辰 一 硯

牛に引かれて善光寺詣り
という話があるが
一度だけ善光寺に
行った事がある
黒部ダムに行く時に
善光寺のある町に一泊した

翌日善光寺お詣りである
老若男女参道一杯に
参詣客の多い事に驚いた

善光寺さんに胎内くぐりがあり
暗闇の中を手探りで私も歩いた
ご本尊の真下にある
金具に手が触れると
幸せになり極楽浄土に
連れて行って貰えるとか
話を聞いた事位である

善光寺さんの由来を
何に一つ見聞きした事もなく
パンフレットを読んだ事もなかった
或る日或る時
山形県の風立寺^{ふうりゅうじ}さんは

ポックリ寺と聞いて
お詣りに行った人の話を
聞く事が出来た

「苦しまないでポックリ死にたい」
と思ってお参りに来ました
話をした所住職さん曰く

ポックリ死ぬのではなく
死ぬまで元気に生き抜いて
お迎えが来た時には
水の流れのように
すーと逝く事が
願いのようだった

住職さんのお話を聞いていると
善光寺さんと風立寺は
姉妹寺との事でした
内の寺にも

東北でも例のない
胎内くぐりがあり
ご本尊の真下に秘仏があり
秘仏の前にかかる
極楽の錠前に触れると
心願成就・安楽往生と念じれば
生き如来様がきつと
願いをかなえて下さる
との事でした

善光寺の胎内くぐりは
心と言う文字になって居り
心の闇をうつしていると言う
人間にとって暗闇ほど
不安に押しつぶされ
恐ろしいものは無いのです
常に明るい所で生活し
苦難苦痛に遇った時

心の迷いに惑わされ
自分自身を見失っているものです
一と筋の仏の光明を
見い出して生きてゆく
事でしょう

ご朱印を頂戴し
住職さんにお礼を述べて
心晴ればれ帰途に着く
事が出来たそうです
良い話を聞かせて頂き
私も何となく救われた
思いの一日でした

―附記―

パンフレットに依れば当寺は斉衡三年（西暦
八五六年）天台宗の高僧慈覚大師（円仁）に
よって開かれた寺です。
風立寺は山寺よりも早く開創された縁起が
残っているそうです。

【選評】

《姉妹寺》

北辰 一 硯

住職が話す仏の教えに、そつと寄り添ったこと
で、心のこもった作品に仕上げられています。
善光寺や風立寺の胎内くぐりにまつわる含蓄の
ある話は、とても印象的でした。



◇ 佳 作 ◇

《隠れ場所》 今 野 きよし

あれどこ行った
看護師さんの
声がある
ああ居たここに
机に向かって居た
私の目の前に
体温計を持って
立っている

私が机に向かって
新聞を読んでいると
看護師さんや
介護員さんも
そう云って

声かけて来る

看護師さんが
なんだ本立ての
陰に隠れて
体を丸くして
新聞を読んでいると
なんだ居たのか
くり返し話かける

私は隠れる
気もないし
見る人によって
いろいろ見えたので
おかしくなった
なにげない日々の
仕草であつても
面白いと思つた

本当に隠れたい
ことがあった
六十年前前の話で
私は一時帰省の
許可を貰って
家帰ったときのこと
保健所の係の方が

二月か三月になると
必ず訪ねて来た
家の中に隠れた
ことあったし
山の方に逃げて
隠れたこともあった
あの時のことを
なつかしく
思い出された

短歌

長田雅道選

◇ 入 選 ◇

北 辰 一 硯
脳腫瘍のガンマ治療受けにゆく覚悟を
決めて車に乗りぬ

【選 評】

重い病氣と診断されたお気持ち
はいかばりだったのだろうか。病
氣に立ち向かう心がみごとに表現
された一首である。全快をお祈り
したい。

今 野 きよし

補聴器をかけてラジオを聞きながらい
つのまにやら眠りてしまう

【選 評】

難聴の作者ならではの秀れた一
首である。生活のひとこまが気負
うことなく詠まれているのがいい。

◇ 佳 作 ◇

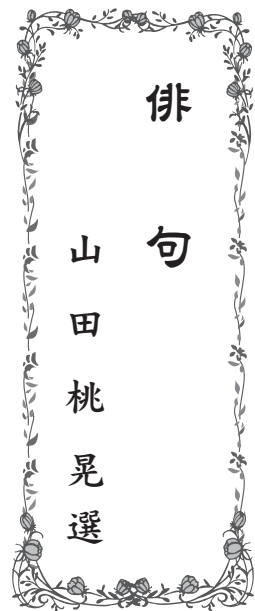
北 辰 一 硯

福寿草一輪咲いたとうれしそうに看護師
さんが教えて呉れし
ガンマ治療の説明聞けば手術より負担少
なし安堵して眠る
午前八時治療室にて点滴をしながら頭に
装置付けたり

治療中とくに痛みはなかりけり機械の音
の時々聞こゆ
日本人二人も残忍なるテロに首さらされ
て震え止まらず

今 野 きよし

全快を願ってリハビリ勢を出す焦ってだ
めだとうなずき乍ら
物を買うことでさびしさまぎらわす留守
居の妻の心いじらし
早番の看護師さんの声のして今日のはじ
まり肌に伝わる
昼食に配りてくれしごちそうを豪華です
ねと声高く食む
退院を間近に控え落ちつかず三時前には
目覚めてしまう



◇ 入 選 ◇

今野 きよし
舗装路の裂け目抜け出て鼓草

【選 評】

一読して、平明な叙述として読み過ぐすかに見える。再読して何かが澱のように胸に遺えて離さない。それは舗装路の裂け目と抜け出てという独特のタンポポの散り際の美学ではなからうか。やさしい心が胸をうつ。

◇ 佳 作 ◇

今野 きよし
行幸啓記念碑除幕緑立つ
記念碑の除幕に拍手つくしんぼ
看護師の言葉弾む木の芽風
つくしんぼ納骨堂の前庭に

ると思えないが、自認して山が笑うように生きて行く我が道あり。

園 永 泊
過去の事問わず雑草萌えにけり
私の好きな夕焼け故郷の空
朴の芽の鋭さなりに光るかな
啓蟄の行く先々に民主主義

園 永 泊
口つけりや泉もくもくしゃべってる

【選 評】

山野の路傍や山肌などから地下水の地層に湧き出た水がたたえられている状態に口をあてて飲む姿が見えて来る。滔滔と湧く冷水が美味しいですかと話かけて来る。楽しい一句ですね。

今野 きよし
良いことのありそな朝山笑う

【選 評】

ともかくにも気持ちは前向きに生きる喜びを充分な朝の山。これは誰もがもつ思い、精神力さえ若くなれば、良いことばかりが有

離園式

— 平成27年3月31日 —



川柳

雫石隆子選

◇ 入 選 ◇

《人位》

命よりいのちへバトン蝶々かな

桜山南仙

【選 評】

花から花へと蜜を戴いて舞う蝶々。蝶のいのちは蜜に支えられるが、花もまた蝶々による授粉で命を繋ぐ。感性豊かな南仙さんは、自然界を妙に感嘆しての一句でしょう。

《地位》

電波塔うきうきさせて春霞

今野 きよし

【選 評】

電波塔を擬人化した作品。霞たなびく中に立つ塔は、まるでうきうきしているように見える。これもまた感覚的な一句。春霞の中、作者自身も春の到来にうきうきした気分なのでしょう。

《天位》

叩いても叩いても居座る鬼がいる

長沼蓮花

【選 評】

厳しい自省の一句。心の中の鬼を追い出そうとする作者。叩いてもを畳み込み、その焦燥感が伝わってくる。人の業とでも言うのでしょうか、分かつてはいても、どうにもならない自らを告発した秀句です。

◇ 佳 作 ◇

長沼蓮花

ランドセルはしゃいでいます青い空
祖母逝って父の背中が小さくなり
嫌な季節だ黄砂と花粉喧嘩する

今野 きよし

なにげなく帰ったわが家過去の物
すれ違い無言の笑顔いやされる
朝食に笑いを添えて配られる

桜山南仙

罪人の眼が何となく刃色
水溜まり天を眺める眼鏡です
読書の灯残して園の眠りかな



桃生 小富士

殺される夢に動悸が止まらない
自分を信じられないガラス玉
説明書よりもやさしいお医者さん
バラの花よりもやさしい看護師さん

よろしく願います

看護師 角 館 とも子

四月一日から、第一病棟に勤務しています。看護師の角館とも子です。出身は岩手県ですが、現在は岩手県一関市に住んでいますので、車で約一時間位かけて通勤しています。

家には一匹の犬がいて、名前はラストといいます。娘夫婦がレゲエファンで、ラストマンに由来しています。ピンシャーとミニチュアダックス犬で、見た目強面ですが、かなりのビビリで足を踏まれそうになっただけで「キャン」と鳴き、情けない視線を向けて抗議してきます。休日は、犬との散歩と庭の草むしり、鉢植えのバラの手入れをするのが、

私の楽しみの時間となっています。

散歩は、筋力低下が気になる現在、愛犬と共に景色の変化を楽しみながら、なるべく長い距離を歩こうと心掛けているのですが、寄る年波には勝てず、公園のベンチでひと休みしながら繰り返している始末です。

庭の草むしりは、何も考えず一心に集中できるひとときです。お隣さんとの境界線が近いので、必要に迫られて行っているのが現状ですが、こうしたボーッとした時間を過ごす事が出来るお陰で、気分がリフレッシュされたりもします。

そんな小さな庭に、鉢植えのバラがあり、初心者向けのバラづくりの本を参考に、剪定やら農薬散布など病害虫対策、台風対策にいらしんでおります。

数年前に、ホワイトクリスマスという品種に出逢い、何の知識もなく植えっぱなしだっ

たので枯れさせてしまいました。白バラの代名詞とも言える傑作、香りも素晴らしく、そのうえ丈夫で育てやすい品種といわれていたので、残念でしかたありませんでした。

去年、偶然立ち寄った園芸店でみつけた時は狂気乱舞の心境で、今度こそは枯らせずに育てようと心に誓い、本を片手に日々成長していく姿を心の励みにしています。

プ女子という言葉を最近耳にするのですが、プロレス好きと言う訳ではありません。知り合いの息子さんが、プロレスラーとして活躍されていて、去年の夏、地元で凱旋試合を行いました。街角のポスターや、テレビなどでその勇姿に触れるたび、心秘かにエールを送っています。

こんな私ですが、周囲の皆さんにご迷惑をかける事、多々あるとは思いますが、どうぞよろしく願います。

お世話になります

看護師 菅 原 幸 栄

このたび四月一日より東北新生園第一メーブルケアセンター配属となりました。菅原幸栄です。

私は、栗原市若柳町出身です。二十年以上前に築館の看護学校を卒業し、その後、仙台で看護師として一昨年まで働いていましたが家庭の都合で地元に戻ってきました。

先日、自治会の方より挨拶がわりに「自己紹介文を書いて欲しい」と言われ、引き受けましたが、いざ書こうとしたら何を書いたらよいのか悩んだ末、地元周辺の昔の思い出話等を書くと思います。

新生園のすぐ近くに伊豆沼がありますが、

小学生の頃、父親によく連れられて遊びに行きました。夏には船に乗り蓮を鑑賞したり、冬には白鳥や鴨に餌をやりに来ました。当時の伊豆沼は水が今より綺麗で、魚も沢山おり小学校の頃よく父親と鯉やフナを釣りをしに来ました。その頃、伊豆沼では年に一度釣りが大会が開催されており何度か参加をしました。一度だけ大会で景品をもらった事がありますが、その時は沢山の参加者がいたのですが、どの人も釣果が思わしく無く、全体でもフナが数匹しか釣れませんでした。その中で私は運よくクチボソを釣り上げたので景品であるクーラーボックスを貰うことができました。その時凄く喜んだ事を昨日の出来事のようにはつきり覚えています。今では、鯉やフナの数もだいぶ減り大会もなくなりましたが、機会があれば父親と一緒にまた釣りをしに行きたいと思います。

新生園の桜並木はとても美しく心を和ませ

たいと思っていますので、何卒よろしく願います。

旅の途中の思い出

看護助手 白鳥辰雄

私は、ここ新生園に就職する以前はトラック運転手として全国を回ってきました。特に多くは九州及び大阪、北陸地方と主に関西方面が多かったです。

このトラック運転手として一番印象に残っているのは、この五月と六月の時期です。この時期は、北陸から名古屋、関西方面の自動車道を運転していると、眼下に素晴らしい風景が現われます。春の風景である姿、菜の花、

てくれます。わたしの家の近くには土手があり、私が生まれた時からそこには桜並木があります。昔、よく桜が満開になると家族で弁当を持って花見に出掛けました。今は桜木もだいぶ減り、当時と比べると大分見劣りしますが、数年前から夜桜がライトアップされています。先日、大橋を通過するとき車窓からライトアップされた桜が目にとまりました。追川に桜木が鮮やかに映されていて、とても綺麗で印象的だったので、その数日後、夜桜を間近で見ようと思い、土手を散歩しました。夜ということもあり私の他に人はいませんでした。したが、とても静かで綺麗な桜をひと目を気にせず、じっくりと見る事ができました。

入職して約一か月が経ちますが、仕事で悩んだ時いつも皆様に丁寧に教えていただき本当に感謝しております。目配り、気配りの配慮等まだ未熟な私ですが、先輩達のように皆様が安心した生活を送れるような支援を行

山の芽ぶきなど、山が笑っているようです。その景色は実に気持ちがいいものです。この風景を、この新生園の入所者の方々にも見せてあげたいと思いました。

このようにトラック運転手をしていて良かったなあとつくづく思っているところです。

この気持ちを忘れないで、ここ新生園で頑張りたいです。



七夕会

今野 きよし

A 入所者 B 介護員

A 今日、七夕会に行つて来ましたか
B はい、行つて来ました

A 浴衣姿良かったね。踊りも良かったね

A 浴衣姿ですか
B Oさんが娘に買って貰ったと云つてました

A そうですか

B 着物良い色でしたね

A 着物ですか、その他は

B そうですね朗読も良かったし

A そうでしたね

B 浴衣姿も良かったし、朗読も上手でした
A そうでしたね

B 皆さんよかったですね

A 浴衣姿の方向何人位居りましたか

B 良く見えませんでしたから

A 浴衣の方は司会者と朗読する方で、六く
B 七人位でしたね

A 七夕に浴衣姿びつたりでしたね

B そうですね、ぴったり合っていました

A 浴衣姿良かったね。雰囲気

B 私もそう思いました

A 他には何かありましたか

B 浴衣を着たかったけれども、仕事があつて、どうしても着られないという方もあり
A しました。

B そうでしたか、そういう方もあったので

A すね

B そうですよ、いろいろあります
A 時間になつて七夕会始まつた時総合司会

A の方いつもと違う感じでしたね

B そうでしたね。静かな方ですが、大役大

A 変だったでしょう

B 司会立派に努めました

A 先入観はいけませんね。実際は違うんですね

B 師長さんのご挨拶は七夕のいわれについてのお話でしたか

A そうでしたよ。よいいわれについてのお話でした。

B 貴方は補聴器をかけても聞こえなかったようでしたね

A いざ始まつて、願い事や川柳、俳句の発表でしたね

B そうでしたね。係の方が準備したものの朗読でしたね

A そうですか、なかなか良い句が多かったですね

B そうですね

A まだまだありましたね

B 自身の願い事やユーモアあふれる句もある

A りましたね

B じいちゃんばあちゃん仲の良い夫婦

A 二人で手をつないで渡った天の川の句もありましたね

B そうでしたね

A それからですね、今自分が置かれている切実な願い事はじんときましたね

B 後は何か聞かせる事ありませんか
A 七夕会始まる前、貴方と話をした時、着物

B 物ですかと力が入りましたね。
A はい、そうでした

B あれはね、良い着物着て、着物も良いし、着物姿が良いということでした。つまり、浴衣姿です

A そうでしたか。力が入りすぎましたね

B そうですよ

A それから西瓜割り、それぞれ皆さん表情ありましたね。気持ちが出ましたね

B 力を入れても西瓜固いために割れませんでしたね

そうでしたね

A B
作品朗読、西瓜割りと四十分位かかりましたね

B
終わって西瓜のごちそうでしたね

A B
西瓜の重量当てのクイズもありましたね。皆さん8 kg、9.5 kg、10 kgとまちでしたが、実際は12.8 kgと云っておりまして

A B
会が始まる前に何かありましたか
いろいろありましたね。浴衣姿がきれいなので何回も触っている人もありましたね

B
始まる前の雰囲気良かったので皆さん浮き浮きしていましたね

A
私たち職員も午後一時四十五分からとなっておりましてから浮き浮きでした

B
皆さんにはお世話になりましたね

A B
私はこうして貴方と話し相手になっておりますが、準備を下さった方々にはなみなみならない御苦勞があつたと思います

ます

A B
始まる前のことに戻りますが、会場の雰囲気良かったですね

B
そうでした、花を添えて下さったのは、浴衣姿の方々でした。目を奪われました。どうもありがとうございました。

